

## 実践タイトル

## デジタル教科書を使ったICT授業実践



## ひとこと

学校教育目標『心豊かでたくましくともに高めあう子どもの育成』

## 実践者 松原 祐希

学校名: 倉吉市立関金小学校  
学校所在地: 鳥取県倉吉市関金町関金宿666  
TEL: 0858-45-2556  
URL: <http://www.torikyo.ed.jp/sekigane-e/>

## 使用するICT機器・準備物

## 指導者

デジタル教材	指導者用デジタル教科書(教材), Google Classroom, ロイロノート
使用端末	iPad OS
その他機器	ホワイトボード, プロジェクター

## 学習者

デジタル教材	学習者用デジタル教科書・教材セット, Google Classroom, ロイロノート
使用端末	1人1台使用(iPad OS)
その他機器	イヤホン

## 学校内のICT環境, 活用実態

本校は全校児童143名, 学級数9クラス, 教職員21名の小規模校である。

本校では2021年, 全校児童と各教科指導者にタブレット端末が配布された。ネットワーク環境や情報提示環境はそれ以前にすでに整備されており, 校内のどの教室からでもネットワークに接続できたり, 無線でタブレットとプロジェクターを接続し情報を提示したりすることができるようになった。このことをきっかけに教員及び児童のICT活用が一層進んだ。また, 児童の活用推進のため, 倉吉市のICT支援員などを招き, タブレットの使い方やプログラミング教育について職員研修を行い, 教員の資質の向上にも努めている。

現在, タブレットの活用は高学年のみならず, 低学年の内からスタートしている。低学年では, ローマ字入力を必要としない機能を主として使っている。写真や動画を撮影し,

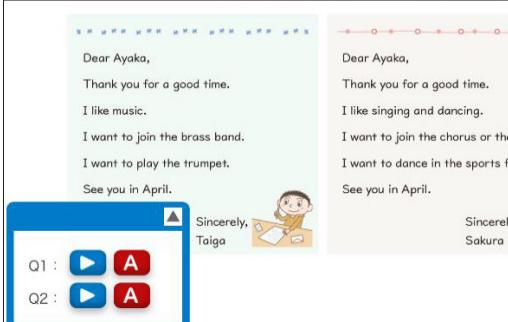
様々な学習内容を記録したり, 情報交換したりすることに役立てている。高学年になると, 様々な資料と自分の考えを組み合わせ, プレゼンテーション資料を作成したり, 他校の小学生と交流を行ったりと活用の幅をひろげている。

全学年で共通しているのがデジタル教科書の活用である。本校では算数, 国語, 外国語, 道徳の指導者用デジタル教科書が導入されている。その使用目的は, 問題場面の確認, 動画による視覚支援, 資料や写真の拡大など多岐に渡り, デジタル教科書を活用しない日はないと言っても過言ではない。また, 外国語においては学習者用タブレットでも今年度デジタル教科書が利用できるようになった。本書では, 外国語におけるデジタル教科書(機器)の活用事例や効果, 今後の展望等を紹介していく。

単元の構成とデジタル教材(機器)の使用 — Unit 8 I want to join the brass band. —

時	主な学習活動	デジタル教材(機器)の活用
1時	部活動を表す言い方を知る。 ・ALTの母国の部活動について聞く。 ・単元のゴールを確認する。 ・リスニングを行う。 ・発音練習をする。 ・単語ゲームを行う。	<b>指導者用デジタル教科書</b> ・p84〈Listen and Guess〉を使用。 ・p85〈Jingle〉, p87〈Chant〉を使用。
2時	部活動を表す言い方を練習する。 ・教師の中学校時代の部活動について聞く。 ・p85〈Jingle〉, p87〈Chant〉を使って部活動の言い方や、やってみたい部活動をたずねたり答えたりする表現を復習する。 ・リスニングを行う。 ・やってみたい部活動をたずねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	<b>指導者用デジタル教科書</b> ・p86〈Listen and Do ①②〉を使用。  <b>学習者用デジタル教科書</b> ・p85〈Jingle〉を使用。 ・p87〈Chant〉を使用。
3時	中学校の行事や生活に関する表現を練習する。 ・ALTの中学校時代の思い出を聞く。 ・中学校で楽しみなことを出し合う。 ・リスニングを行う。 ・中学校の行事や生活に関する表現を知り、発音練習をする。 ・中学校でやってみたいことをたずねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	<b>指導者用デジタル教科書</b> ・p88〈Listen and Do ①②〉を使用。  <b>学習者用デジタル教科書</b> ・p89〈Chant〉を使用。
4・5時 (本時)	中学校で入りたい部活や、やってみたいことをメモにまとめる。 ・教師の中学校時代の思い出を聞く。 ・今まで学習した表現を復習する。 ・リスニングを行う。 ・発表準備を行う。 ・発表練習を行う。	<b>指導者用デジタル教科書</b> ・p90〈Listen and Do ①〉を使用。  <b>学習者用デジタル教科書</b> ・Unit8の〈Jingle〉〈Chant〉を使用。  <b>学習者用タブレット</b> ・動画で撮影をする。
6時	同じ中学校に進学予定の友達と、中学校で入りたい部活や、やってみたいことを紹介しあう。 ・オンラインで他校の児童と繋がる。 ・あいさつや自己紹介をする。 ・入りたい部活や、やってみたいことを紹介しあう。	<b>学習者用タブレット</b> ・他校の児童とオンラインで繋がる。
7時	単元の復習をする。 ・今まで学習した表現を復習する。 ・p92〈Did you know?〉, p93〈Let's Read2〉に取り組む。	<b>指導者用デジタル教科書</b> ・p92〈Did you know?〉 p93〈Let's Read2〉を使用。  <b>学習者用デジタル教科書</b> ・Unit8の〈Jingle〉〈Chant〉を使用。
8時	単元テストを行う。	

授業の展開 —— Blue Sky elementary 6 教科書 p.90 4, 5時間目／8時間中 ——

授業の流れ	主な学習活動	▶ 教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 機器・教材
導 入	<p>■ 教師の中学校時代の思い出を聞く。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0f2e0;"> <p>I had the field trip in May.</p>  </div>	<p>▶ <b>指導者用タブレット</b></p> <p>▶ プレゼンテーション資料を提示し、写真やイラストに合わせて話をする。</p> <p>▶ <input checked="" type="checkbox"/> 児童が今後の学習に見通しを持てるよう、できるだけ今まで学習した表現を使って話すようにする。</p>
展 開	<p>■ 教科書 p.90 〈Listen and Do ①〉を行うことで、交流への見通しをもつ。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0f2e0;">  </div> <p>■ 中学校で入りたい部活や、やってみたいことについてメモをつくる。</p>  <p>■ Chant を使って、発表練習をする。</p> 	<p>▶ <b>指導者用デジタル教科書</b></p> <p>▶ p.90 〈Listen and Do ①〉を流す。</p> <p>▶ 聞くだけではなく、音声なしで英文を読むことにも挑戦する。</p> <p>▶ Chant に出てくる表現に自分が入りたい部活などを当てはめて練習するよう指示する。</p> <p>▶ Chant を活用し練習することで、英語のまとまりやリズムを意識して話せるようにする。</p> <p>▶ <b>学習者用デジタル教科書</b></p> <p>▶ <input checked="" type="checkbox"/> イヤホンを着用することで、周りの音が気にならない状況を作る。</p>

授業の流れ	主な学習活動	▶教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 機器・教材
	<p>■ペアで発表練習を行う。</p> 	<p><b>学習者用タブレット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 動画の撮影をしながら発表を行うことで、自分の発表がどのように見えたり聞こえたりするかを客観的に捉え、改善点を見付けられるようにする。</li> <li>▶ 複数回撮影を行うことで、自己の変化を実感できるようにする。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> ペアを変えながら何度も練習する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 一方的に話すのではなく、相手の質問に答えるという形で練習を行う。</li> </ul>
<b>まとめ</b>	<p>■撮影した動画を活用し、自分の発表がどうだったのかを振り返る。</p> 	<p><b>学習者用タブレット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 練習のはじめと終わりの動画を見比べることで、練習による自己の成長を実感できるようにする。</li> </ul>

## 児童の反応、実践の手ごたえ

ここでは複数の具体的な場面を取り上げていく。

### ① Jingleでの単語練習の場面

Jingle では音声と対応した絵カードがリズミカルに再生される。カードを見せて教師の発音を真似するときと比べ、児童の声が大きかった。自分たちが声を出すタイミングと同時に音声が再生されるので児童は自信を持って発音することができていたようである。また、絵カードにはアルファベットが表記されている。このことにより自然と音声と文字を結び付けられる構造になっている。学習が進んでくると、ミュート設定にし、アルファベットを見て発音するという課題を出すこともできる。

本校では、学習が進んでくると自分で字幕を隠し、その表現を本当に覚えているかを確認している児童が複数あった。この姿から Jingle にも Chant と同じように字幕の有無が選択できる機能が備わればより使いやすいものになると感じた。

## ② Chantの練習場面

Chantを練習する際、まず全体で練習を行った後、個別での練習時間をとった。児童は自分の実態に合わせて速さを変えたり、音声の有無を自分で設定したりしていた。自分でレベルを設定できるということが学習意欲の向上に繋がっていたと感じる。

また、発表に向けた練習時間にもChantを活用した。発表に向けた練習場面ではChantに出てくる表現をそのまま練習するのではなく、最後の一語は自分自身のことを当てはめて練習するようにした。Chantを活用すると英語のまとまりやリズムを意識した話し方が身に付いていった。今まで文字を追うだけの話し方だった児童も変化が見られた。

## ③ リスニング場面

デジタル教科書にはリスニング音声も導入されている。今までではCDを再生したり、パソコンを操作したりしてリスニング活動を行っていた。今回のようにタブレットに入っているデジタル教科書を活用すると操作時間を非常に短くすることができる。このことは児童の集中力を持続させることにも繋がっている。テンポよく授業を進めるのにも役立っている。

また、任意のタイミングで一時停止することも可能である。学習を進めていく中で一度聞いて児童が聞き取ることが難しかった文があった。再度聞く際に、その文の手前で一度止めることで、児童はより注意深く聞こうとする姿が見られた。ただ、現在のデジタル教科書では一時停止しかできないので、巻き戻しやスキップなどの機能が備わるとよいと感じている。

## ④ 中学校で入りたい部活や、やりたいことの紹介の仕方を練習する場面

全体で教科書の例文を練習した後、中学校で入りたい部活や、やりたいことを紹介する表現を練習した。学習者用デジタル教科書が導入される以前は、言い方を忘れてしまった児童一人一人に教師が対応するということが多くあった。しかし、学習者用デジタル教科書を使うと、児童が自分自身で前ページに戻り、音声を再生することで言い方を確認することができていた。これにより、一人一人に対応していたために生まれていた待ち時間が削減でき、スムーズに学習活動を行うことができた。

また、本校では1人1台のタブレット端末が導入されており、個別に練習をする際には非常に役に立つ。例えば、ペアで動画を撮影し合い、自身の発音を自己評価したり、単元のはじめと終わりでは自分がどのくらい成長したかを比べたりすることができる。また、動画を撮影し、教師に転送させることで評価を行う際にも役立てることができる。

## ⑤ オンラインでの他校の児童との交流場面

本校6年生の児童は、総合的な学習で人権学習を行う中で、他校の児童とオンラインで交流した経験があった。本単元の学習に入る前に児童に話を聞くと、交流した友達が、中学校でどの部活に入りたいかを知りたいという思いを持っている児童が複数あった。そのような思いをもとに単元のゴールを設定した。

実際にオンラインでの交流を行ってみると、様々なよさが見られた。学級全体に発表するという形に比べ、相手の言葉の一つ一つをしっかりと聞こうという意識や、相手に伝わるように伝えようという意識の高まりが感じられた。また、小グループの形成をしたことで、活動量をしっかりと確保した学習を行うことができた。しかし回線が混み合い、相手と繋がりにくい、音声が聞こえないなどのトラブルもあったので改善も必要だった。

オンラインを活用すると相手の選択肢が増えていく。その中から学習内容に合った相手を選ぶことで、コミュニケーションの必然性が生まれたり、学びの質を高めたりすることができると感じた。本校のような児童数が少ない学校ではとても有効な手段であると感じた。

## まとめ

---

今回の実践を通して感じたのが、 まずやってみることが重要だということだ。授業の中で ICT を使ってみることで気付くことが多くあった。デジタル教科書や ICT を使って有効だった場面もあれば、 アナログでの学習の方が有効だと感じた場面もある。このように実践を重ねていく中で使用場面を判断する力や、 より効果的な活用法を考える力が教師自身に身に付いてくるのではないかと考える。

児童においては、 物珍しさもあり現在はタブレットを使用した学習に非常に意欲的である。使用して様々な操作を覚えることも大切だが、 児童自身が何のために使うのかという目的を理解することも大切である。導入場面で教師が目的を示し

たり、 児童と一緒に考えたりする時間を確保するということを忘れずに実践していきたい。

タブレットを活用することで、 児童は真剣にタブレットに向き合って学習することができる。しかしその結果、 他者とのコミュニケーションにかける時間が少なくなってしまったこともあった。外国語という言語の学習の目的は、 言語や文化に対する理解を深め、 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、 情報を整理しながら考えたり、 伝えたりする力を身に付けることである。コミュニケーションと ICT の活用をリンクさせるという部分を今後の自身の課題として取り組んでいきたい。